

日本聖公会 神戸教区報
神のとおとずれ

司祭 ペテロ・パウロ 柳本博人

11月は、日本の年中行事の七五三に由るのでしょうか、教会でも子どもたちに思いを致す時季のようです。

「はつきり言つておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

(マルコ10:15)

という、イエス様の言葉は、とてもポピュラーです。ここで語られる「子ども・ヨハネの福音書」という言葉に、無邪気で、素直で、可愛くて、何の罪も無い、といったイメージを持つ私たちは、そんな子どものように、天使のような心で、神様を受け入れられる人でなければ、きっと、神の国に入れていただくことは難しいに違いない、そ

う思っています。

* * *

子どもたちが、無邪気で、素直で、可愛いことに、何の疑いも無いのですが、同時に、子どもたちは、想像を絶するほど、好奇心に満ちていて、何にでも手を出して、その結果、生じた事柄に対しても責任を取ることが出来ない、「大人に頼り切っている」という側面も持ち合わせています。

イエス様が、「神の国は子どものような者たちのものだ」と言われ、神様が子どものよくなく、大人でも、そんな「子ども・ヨハネの福音書」のような人間を喜んで受け入れくださると言うとき、その「子ども・ヨハネの福音書」の言うのは、無邪気で可愛いばかりではなくて、自分だけでは何も出来ない人間、その

子どものとおとずれ

日本聖公会 神戸教区報

2012年
11月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

ことを知つて、自分を超えた存在に頼り切つてゐる、そんな人間を意味するように思われてなりません。

イエス様が、子どもたちを祝福されたのは、彼らが、神様無しでは、何も出来ない存在であったからだと思うのです。

「弱くて、神様無しでは何も出来ない、そんな自分に気付く者でなければ、神の国には入れない。神の国は、そういう人間のもので、神様に頼らざるを得ない弱い者こそが、神様の支配の許で、神様に喜ばれる存在なのだ。」イエス様は、そう語りかけておられるのではないでしょうか。

そして、子どもばかりではうな人間を喜んで受け入れてくれたと言ふのは、無邪気で可愛いばかりではなくて、自分だけでは何も出来ない人間、そのかも知れません。



＊＊＊

知識や神学が必要であることは言う迄もありませんし、日頃の学習も大切でしょう。しかし、私たちが学ぶのは、「出来る者」「あらゆる責任を自分で負える、神様を必要としない者」になるためではあります。出来ることが沢山あって、自分自身を「出来る者」だと思つていて、いつも出来る自分?の自己表現に熱心であることは、出来ることが沢山あって、自分自身を「出来る者」だと思つていて、いつも出来る自分?の自己表現に熱心であるからです。

「出来る者」でありたい、そう願う私たち大人は、「出来る者」となるべく努力します。勿論、人間的に「出来る者」であることは素晴らしい、それを否定する者は誰もいません。でも、神様に向かって「出来る者」、「出来ると信じている者」は要注意です。子どもたちと正反対の人間になる危険があるからです。

＊＊＊

「出来る大人」ではなく、「出来ない子ども」が神様の祝福を受ける。それが、私たちに語られる福音です。

公会暦の一年の締め括りの季節に在つて、神様に頼る「子ども・ヨハネの福音書」を目指したいと思います。

(松山聖アンデレ教會牧師)・大洲聖公会管理牧師

「子ども・ヨハネの福音書」には、冒頭の聖句を含むコンテキストの中で、イエス様が子どもたちを祝福された時、彼らを拒んだ弟子たちと、同じ落とし穴が待つてゐる

神戸教区のみなさまへ

執事 ポール・トルハースト

After coming to Japan for one year in 1999 I never imagined I'd still be here now and be ordained a deacon in a Japanese cathedral! But God does work in unexpected ways and that is something I do find challenging and rewarding in my Christian faith!

I have worked with the Mission to Seafarers in Yokohama and Kobe since my arrival in Japan and I am still learning more and more about the international world we live in as well as more and more about myself.

This learning was added to at my ordination last month. I felt so grateful and encouraged to have the support and presence of many varied groups at the service; family and friends, colleagues and mission workers from other Asian ports as well as London Central Office; clergy and laity from throughout the diocese and staff and children from St. Michael's International School. This all perfectly illustrated how diverse the Anglican world can be; yet remain as one family in Christ.

I pray that through my on-going part-time study in Nottingham, I will have the opportunity to learn more new ideas and current worship practices within the Church of England and I hope to be able to share these with the diocese here, my Christian family in Japan.

Thank you for all your support and prayers and I hope that I can continue to serve God's people through my words and actions wherever I may be. See you soon!

Paul

(抄訳)

1991年以来、ミッション・トウ・シーフェアーズの仕事を続けてきましたが、まさか自分が日本で按手式を受けるなど想像もしていませんでした。神は、時に想定外のチャレンジとお恵みをもたらしてくれるようです。

執事按手式では、家族や友人のみなさず、英国・アジアの聖公会関係者や国際学校の生徒達など実に多くの方々が来て下さいました。聖公会の、教会の枠に捕われない活動の結果、これ程多様な人々が、一つの家族として集ってくれたような気がしました。

今後も将来の活動を見据えながら英国で研鑽を積み、皆様のお役にたてるよう精一杯努力していきます。それでは、神戸教区のみなさまに、お目にかかります時を、楽しみにしております。

ポール

ポール・トルハースト 新執事誕生 ～聖靈はいつも新しい～

式典長 司祭 マルコ 藤井尚人



2012年9月22日（秋分の日）、神戸聖ミカエル大聖堂において、ポール・マイケル・トルハースト聖職候補生の執事按手式が、秋晴れの空の下、国内外から200名を超える聖職・信徒の臨説により、国際色豊かに挙式されました。説教壇に立たれたジョン・バグ司祭は、「ポール、様々な場合に出席することを、安易に約束してはなりません。『私は大変忙しい』ということを口実に、他者の牧会配慮が、後回しになるとしたら……それは正しいことでしょうか。ポール、人々に顧みられない場所で、貧しい人、病床の人、評価されない人、力の弱い人に自らを捧げる執事職に専念して下さい」と、慈父の眼差しで新執事に語りかけ、「私たちが主を愛し、主の僕として、この世界に仕えるために、派遣されますように」との祈り

を捧げられました。ポール新執事の誕生によって、教区に新しい風が吹き込まれることが期待されます。例えば、神戸MTSで実施されている「カフェ・チャーチ」などは、英國聖公会の「フレッシュ・エクスプレッション・オブ・チャーチ（注1）」の一環であり、中村教区主教も「メッサー・チャーチ（注2）」の例を挙げて、新しい教会の宣教像が、ポール新執事の誕生によって、神戸教区に与えられる希望を語られました。（神戸聖ヨハネ教会牧師）



(注2) メッサー・チャーチとは？

日曜学校などと同じような教会活動の一つでしたが、従来のそうちした活動との違いは、老若男女、人種を問わず、あらゆる階層の人たちが加わっている点です。その目的は共に信仰が成長することですが、様々な世代の人たちが、一所に集うことによって、他者から多くの事柄を学ぶ機会を提供するものです。（アンデレ便り11月号抜粋）

<http://www.freshexpressions.org.uk/about/whatisions>

(注1) フレッシュ・エクスプレッション・オブ・チャーチとは？

教会の礼拝や集会に参加しない人たちを対象に集会を計画することを目的とした活動。喫茶店を宣教の場としてとらえて活動している教会や、お茶とケーキの時間に祈りと聖歌、聖書朗誦と対話形式での聖書の学びを持つところなどある。

東日本大震災関連情報

小名浜にて

モーセ 塔田 光俊

イの福音書6章34節」というキリストの御言葉を思い出し、ご婦人の謙虚な姿に学ばされました。

昨年7月一ヶ月間、小名浜聖テモテ教会において、京阪神3教区合同のボランティアセンター設立の目的で滞在しました。

その間、ひたすら被災者の生月から、支援活動が展開され、現在、仮設住宅の「ほっこりカフェ」(大熊町、富岡町の一部の方々)の働きが、被災者的心の支えになっていることはご承知の通りです。

常駐の大坂教区の木村司祭を中心、多くの方が参加され、活動が軌道にのっておりまます。

今年9月、再度小名浜を訪れる機会をいただき、仮設の被災者の喜びの声を聴くにつれ、関係者の真摯に向き合つておられる姿に感銘を受けました。

この度、滞在中に、被災者のあるご婦人の「私は今生かされている、毎日毎日が感謝です」という言葉に「明日の事まで思ひ悩むな……その日の苦労はその日だけで十分である」(マタ



(米子聖ニコラス教会信徒)

境復活教会では、山陰伝道区研修会の準備会を兼ねて、四回の宣教協議会を行いました。教区宣教協議会の報告を受けて、その趣旨に賛同し、事態の深刻さを共感しました。

まず、私たちの教会の現状をどうとらえるか話し合いました。以前から深刻な事態であると知りながら、特に手を打つこともなく今日に至っています。改めて宣教の意義と必要性を知り、具体的な行動案について検討しました。

教会を紹介するパンフを作つてはどうか。在境の外国人や船員の参加を考えたらどうか。他の教会の会員や今まで教会に来た会員に礼拝と共にしようと呼びかけたらどうか。教会の礼拝日をわかるよう掲示をしたらどうか。

入会した人の経験から掲示が必要であるなど、予算を計上して、教会内外の体勢を整え、十ヶ月までに整備を完了すると決めました。道路からもわかる掲示板、聖歌の番号版の設置など、会員の手作りの版を奉獻しまし

た。聖句の額を作り奉獻しました。「あなた方は世の光である」と会員のお孫さんに書いてもらいました。

外部の整備も必要であるとしさを共感しました。

づき、年間活動計画を立て、整備に努めました。教会の屋根の塗装を行い、教会を明るくしました。新しく礼拝に来る人のケニアに配慮しました。

このような活動は、思いつきでなく、ビジョンやアクションプランによる解決が必要です。

地域社会には、子供が抱える悩み、高齢者の暮らしの悩みが、教会の交わりの内外に見え隠れしていると思います。身近な現実や悩みを分かち合う、祈りの教会でありたいと思います。

(境復活教会信徒)

境復活教会 宣教協議会

バプテスマのヨハネ 佐賀 有道

鳩だより

〔敬称略〕

9月2日(日) 祝 堅 信

トマス岡本淑明

岡山聖オーガスチノ教会

9月1日(土) 祝 聖 婚

マリア杉野友美

神戸聖ミカエル教会

9月16日(日) ヨハネ藤原清隆

森寛子

9月2日(日) ヨハネ小松原正直(72歳)

神戸聖ミカエル教会

9月8日(土) ヨハネ

森田文枝(88歳)

9月21日(金) リベカ

吳信愛教会

9月29日(土) マリア足立登美代(92歳)

境復活教会

セシリ亞吉野京子(65歳)

岡山聖オーガスチノ教会

9月21日(金) マリア足立登美代(92歳)

境復活教会

セシリ亞吉野京子(65歳)

岡山聖オーガスチノ教会

9月29日(土) マリア足立登美代(92歳)

境復活教会

セシリ亞吉野京子(65歳)

岡山聖オーガスチノ教会

9月29日(土) マリア足立登美代(92歳)

境復活教会

セシリ亞吉野京子(65歳)

岡山聖オーガスチノ教会

11月25日
(降臨節前主日)
人権活動を
支える主日

すべての人権活動
の働きを覚えて祈り、
信施をお献げしましょ
う。

神戸伝道区

◎10月7日(日)、午後2時から、明石聖マリア・マグダレン教会にて、第2回伝道区会を開催した。

広島伝道区

◎広島復活教会
10月21日(日)、隣接する上幟町公園でホームレスの人たちへの炊き出しを行った。来会者約50人。この炊き出しの働きに、広島学院学生、保護者、先生たちも加わり、来月を担当して下さることになった。

山陰伝道区

◎伝道区信徒修養会開催
10月13日(土)～14日(日)、米子市皆生温泉のグランドホテ

1日目は、主教様の講話、伝道区会、その後に各教会の自己紹介と親睦。2日目は境復活教会で、大勢の人と共に聖餐式と交わりという喜ばしい、感謝の時を持つことができました。主教様の講話はどれも感銘深いものでしたが、特に、宣教は小さなことの積み重ねであること、私達は信仰的に楽な方を選んでしまいがちですが、「楽をしてはならない」と語られたことなど、伝道や信仰や生き方を非常に考えさせられる、良き修養会となり

ル天水及び境復活教会において、山陰伝道区修養会を開催。講師に東京教区の大畠喜道主教様をお迎えして、「宣教・伝道」のテーマについてお聴きしました。出席者は約50名。

◎鳥取聖ルカ教会
10月6日(土)、地域の高齢者を招いて「ほかほか広場」を開催した。詳細は下段を参照。

鳥取聖ルカ教会

「ほかほか広場」を開催して

ドルカス 清水 まさみ

それは、とても嬉しいことでし

た。

アコーディオンの演奏のもと、

歌声が美しく響き渡ります。初

めでお会いした方と目を会わせ、

心を通わせて歌えることのすば

らしさ、自分一人ではないとい

う喜び、そして、「誰でも私の

もとに来なさい」というイエス

様のみ言葉の意味を強く感じま

した。

一時間という短い時間でした

が、大好きな聖歌を歌っている

ときと同じような和やかな気持

ちで、お招きした方と、お迎え

した私たち信徒と、皆で心を一

つにして楽しく過ごしました。

お見送りする際には、「またい

つかやつていただけますか」と

おっしゃつてくださる方もいらっしゃり、改めて勇気が湧きました。

た。

加えて、教会の信徒全員でや

らせていただいたことで喜びもひとしおでした。

これからも、このようなボランティアの会を続けて行きたい

と思います。

(鳥取聖ルカ教会信徒)

12月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2012年12月6日(木)午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 秋山 義孝

12月の記念逝去教役者

2日	主 教	チャニング・ウェイリアムズ
2日	司 祭	ヨハネ 長寄 泉三彦
5日	司 伝道師	森慶祐
5日	司 祭	モテ 岩井彦信
10日	司 伝道師	パウロ 島田虎太郎
10日	司 伝道師	パウロ 大石虎太郎
14日	伝道師	イブリン・ブレストン
14日	宣教師	ペテロ 武田頼夫
14日	司 祭	ペテロ 水野功
14日	司 祭	ペテロ 稲税虎三
19日	宣教師	マリー・ホームズ
20日	宣教師	ハナ・D・スコット
21日	司 祭	ペテロ 加藤九十九
29日	司 祭	マルコ 伊崎八束
30日	伝道師	オードリー・ヘンテ
31日	司 祭	マルコ 杉野貢

収穫感謝献金のお願い

目的:老朽化した教会・会館・牧師館等の修理・バリアフリー化のため。

募金額:200万円

募金方法:各教会で献げられた収穫感謝献金は、教区会で代表者にお献げ頂くか、教区財務部にご送金下さい。

◎伝道区信徒修養会開催
10月7日(日)～8日(月) 高知県高岡郡津野町、四万十川

源流の郷麓温泉にて「三教会のこれから」をテーマに懇談会形式で開催。参加者25名。

西四国伝道区

◎伝道区信徒修養会開催
10月7日(日)～8日(月) 高知県高岡郡津野町、四万十川

のこれから」をテーマに懇談会形式で開催。参加者25名。

かしたりします。ご高齢の方な
らばどなたでも、男女問わず参
加いただけます。

講師は当教会信徒の中嶋玲子
姉です。準備にあたり、お招き
する方が高齢者なので、足もと
に気を配るなどの配慮が必要で
した。お招きする側の私たちも、
皆さんのが教会にどのような気持ち
で来て下さるのかな、と心配
でした。でも、明るい顔を心が
けてお迎えしよう、また、神様
が見守っていて下さると思いま
した。

さて、会場内に椅子を並べて
準備完了です。来て下さった方
は9名。丸く輪に並べた椅子の
数と、丁度、同じ人数でした。

(鳥取聖ルカ教会信徒)